

# スジ鉄が考える時刻表の楽しみ方

2年 松橋隆太郎

硬式野球部に所属している松橋隆太郎と申します。今回、特別に寄稿させていただきました。

1人の鉄オタとして、私が専門とする分野は時刻表です。今回は時刻表をはじめ、鉄道会社が織りなす美しいダイヤグラムとそれにまつわる秘密を少しお話できればと思います。スマートフォンやタブレットが普及した現代社会では、紙の時刻表を持っている方の数は減少の一途をたどる一方。その中でも、JRの他にも小田急電鉄や東武鉄道などでは今でも紙の時刻表を配布しています。

紙の時刻表のいいところを聞かれると、一般的に言われるのは、「時刻表の上で1人で旅ができる」だと「臨時列車の時刻表がわかりやすく掲載されていてネット版より列車を探しやすい」とかですが、今回、私が書くのは私が個人的に感じる時刻表の美しさについてです。この場をお借りして、私の愛する時刻表たちのうち、鉄オタ専用と言えるような、風変わりな時刻表を2つ紹介したいと思います。

## ①会社を跨いだ時刻表の頂点

東京時刻表 交通新聞社

東京時刻表は、毎年春のダイヤ改正に合わせて交通新聞社が発行している、JRや大手私鉄をはじめ、首都圏のほぼ全ての路線の時刻表が掲載された時刻表です。臨時列車情報などは載っていませんが、各社に跨った時刻表であるという点では、これ1冊あれば関東どこへでも行けるほど利便性が高いです。

この時刻表で私が美しいと思うのは、関東の私鉄各社が形成するパターンダイヤの数々です。パターンダイヤとは、下の写真のように、一定時間で周期的に列車を運行するダイヤグラムのことです。

(下の写真は、つくばエクスプレスの11時台～16時台の時刻表。快速、区間快速、普通が等間隔にくるのがわかる)

[ 855 ]		私 鉄			
(首都圏新都市鉄道(つくばエクスプレス)) 平日(下り・その1)					
時刻番号	5289	4043	5023		
時刻番号	5291	3017	5293		
時刻番号	4045	5025	5295		
時刻番号	5027	5299	3021		
時刻番号	5301	4049	5029		
時刻番号	5030	3023	5305		
時刻番号	4051	5031	5307		
時刻番号	5308	4053	5032		
時刻番号	5034	3025	5309		
時刻番号	4055	5035	5310		
時刻番号	5311	4057	5036		
時刻番号	5037	3027	5312		
時刻番号	4059	5038	5313		
時刻番号	5314	4061	5039		
時刻番号	5040	3028	5315		
時刻番号	4063	5041	5316		
時刻番号	5317	4065	5042		
時刻番号	5043	3029	5318		
時刻番号	4067	5044	5319		
時刻番号	5320	4069	5045		
時刻番号	5046	3030	5321		
時刻番号	4071	5047	5323		
時刻番号	5324	4073	5048		
時刻番号	5049	3031	5325		
時刻番号	4075	5051	5326		
時刻番号	5327	4077	5052		
時刻番号	5053	3032	5328		
時刻番号	4081	5055	5329		
時刻番号	5330	4083	5056		
時刻番号	5057	3033	5331		
時刻番号	4085	5059	5332		
時刻番号	5333	4087	5058		
時刻番号	5060	3034	5334		
時刻番号	4089	5061	5335		
時刻番号	5336	4091	5062		
時刻番号	5063	3035	5337		
時刻番号	4093	5065	5338		
時刻番号	5339	4095	5066		
時刻番号	5067	3036	5339		
時刻番号	4097	5069	5340		
時刻番号	5341	4099	5067		
時刻番号	5070	3037	5341		
時刻番号	4101	5072	5342		
時刻番号	5343	4103	5073		
時刻番号	5074	3038	5344		
時刻番号	4105	5076	5345		
時刻番号	5346	4107	5074		
時刻番号	5075	3039	5346		
時刻番号	4109	5078	5347		
時刻番号	5348	4111	5075		
時刻番号	5076	3040	5349		
時刻番号	4113	5080	5350		
時刻番号	5351	4115	5076		
時刻番号	5077	3041	5352		
時刻番号	4117	5082	5353		
時刻番号	5354	4119	5077		
時刻番号	5078	3042	5355		
時刻番号	4121	5084	5356		
時刻番号	5357	4123	5078		
時刻番号	5079	3043	5358		
時刻番号	4125	5086	5359		
時刻番号	5359	4127	5079		
時刻番号	5080	3044	5360		
時刻番号	4127	5088	5361		
時刻番号	5362	4129	5080		
時刻番号	5081	3045	5363		
時刻番号	4131	5090	5364		
時刻番号	5365	4133	5081		
時刻番号	5082	3046	5366		
時刻番号	4135	5092	5367		
時刻番号	5368	4137	5082		
時刻番号	5083	3047	5368		
時刻番号	4137	5094	5369		
時刻番号	5369	4139	5083		
時刻番号	5084	3048	5370		
時刻番号	4141	5096	5371		
時刻番号	5371	4143	5084		
時刻番号	5085	3049	5372		
時刻番号	4145	5098	5373		
時刻番号	5373	4147	5085		
時刻番号	5086	3050	5374		
時刻番号	4147	5105	5375		
時刻番号	5375	4149	5086		
時刻番号	5087	3051	5376		
時刻番号	4149	5107	5377		
時刻番号	5377	4151	5087		
時刻番号	5088	3052	5378		
時刻番号	4151	5109	5379		
時刻番号	5379	4153	5088		
時刻番号	5089	3053	5380		
時刻番号	4153	5111	5381		
時刻番号	5381	4155	5089		
時刻番号	5090	3054	5382		
時刻番号	4155	5113	5383		
時刻番号	5383	4157	5090		
時刻番号	5091	3055	5384		
時刻番号	4157	5115	5385		
時刻番号	5385	4159	5091		
時刻番号	5092	3056	5386		
時刻番号	4159	5117	5387		
時刻番号	5387	4161	5092		
時刻番号	5093	3057	5388		
時刻番号	4161	5119	5389		
時刻番号	5389	4163	5093		
時刻番号	5094	3058	5390		
時刻番号	4163	5121	5391		
時刻番号	5391	4165	5094		
時刻番号	5095	3059	5392		
時刻番号	4165	5123	5393		
時刻番号	5393	4167	5095		
時刻番号	5096	3060	5394		
時刻番号	4167	5125	5395		
時刻番号	5395	4171	5096		
時刻番号	5097	3061	5396		
時刻番号	4169	5127	5397		
時刻番号	5397	4173	5097		
時刻番号	5098	3062	5398		
時刻番号	4171	5129	5399		
時刻番号	5399	4175	5098		
時刻番号	5099	3063	5400		
時刻番号	4173	5131	5401		
時刻番号	5401	4177	5099		
時刻番号	5100	3064	5402		
時刻番号	4175	5133	5403		
時刻番号	5403	4179	5100		
時刻番号	5101	3065	5404		
時刻番号	4177	5135	5405		
時刻番号	5405	4181	5101		
時刻番号	5102	3066	5406		
時刻番号	4179	5137	5407		
時刻番号	5407	4185	5102		
時刻番号	5103	3067	5408		
時刻番号	4181	5139	5409		
時刻番号	5409	4187	5103		
時刻番号	5104	3068	5410		
時刻番号	4183	5141	5411		
時刻番号	5411	4191	5104		
時刻番号	5105	3069	5412		
時刻番号	4185	5143	5413		
時刻番号	5413	4193	5105		
時刻番号	5106	3070	5414		
時刻番号	4187	5145	5415		
時刻番号	5415	4195	5106		
時刻番号	5107	3071	5416		
時刻番号	4189	5147	5417		
時刻番号	5417	4197	5107		
時刻番号	5108	3072	5418		
時刻番号	4191	5149	5419		
時刻番号	5419	4201	5108		
時刻番号	5109	3073	5420		
時刻番号	4193	5151	5421		
時刻番号	5421	4203	5109		
時刻番号	5110	3074	5422		
時刻番号	4195	5153	5423		
時刻番号	5423	4205	5110		
時刻番号	5111	3075	5424		
時刻番号	4197	5155	5425		
時刻番号	5425	4207	5111		
時刻番号	5112	3076	5426		
時刻番号	4199	5157	5427		
時刻番号	5427	4209	5112		
時刻番号	5113	3077	5428		
時刻番号	4201	5159	5429		
時刻番号	5429	4211	5113		
時刻番号	5114	3078	5430		
時刻番号	4203	5161	5431		
時刻番号	5431	4213	5114		
時刻番号	5115	3079	5432		
時刻番号	4205	5163	5433		
時刻番号	5433	4215	5115		
時刻番号	5116	3080	5434		
時刻番号	4207	5165	5435		
時刻番号	5435	4217	5116		
時刻番号	5117	3081	5436		
時刻番号	4209	5167	5437		
時刻番号	5437	4219	5117		
時刻番号	5118	3082	5438		
時刻番号	4211	5169	5439		
時刻番号	5439	4221	5118		
時刻番号	5119	3083	5440		
時刻番号	4213	5171	5441		
時刻番号	5441	4223	5119		
時刻番号	5120	3084	5442		
時刻番号	4215	5173	5443		
時刻番号	5443	4225	5120		
時刻番号	5121	3085	5444		
時刻番号	4217	5175	5445		
時刻番号	5445	4227	5121		
時刻番号	5122	3086	5446		
時刻番号	4219	5177	5447		
時刻番号	5447	4229	5122		
時刻番号	5123	3087	5448		
時刻番号	4221	5179	5449		
時刻番号	5449	4231	5123		
時刻番号	5124	3088	5450		
時刻番号	4223	5181	5451		
時刻番号	5451	4233	5124		
時刻番号	5125	3089	5452		
時刻番号	4225	5183	5453		
時刻番号	5453	4235	5125		
時刻番号	5126	3090	5454		
時刻番号	4227	5185	5455		
時刻番号	5455	4237	5126		
時刻番号	5127	3091	5456		
時刻番号	4229	5187	5457		
時刻番号	5457	4239	5127		
時刻番号	5128	3092	5458		
時刻番号	4231	5189	5459		
時刻番号	5459	4241	5128		
時刻番号	5129	3093	5460		
時刻番号	4233	5191	5461		
時刻番号	5461	4243	5129		
時刻番号	5130	3094	5462		
時刻番号	4235	5193	5463		
時刻番号	5463	4245	5130		
時刻番号	5131	3095	5464		
時刻番号	4237	5195	5465		
時刻番号	5465	4247	5131		
時刻番号	5132	3096	5466		
時刻番号	4239	5197	5467		
時刻番号	5467	4249	5132		
時刻番号	5133	3097	5468		
時刻番号	4241	5199	5469		
時刻番号	5469	4251	5133		
時刻番号	5134	3098	5470		
時刻番号	4243	5201	5471		
時刻番号	5471	4253	5134		
時刻番号	5135	3099	5472		
時刻番号	4245	5203	5473		
時刻番号	5473	4255	5135		
時刻番号	5136	3100	5474		
時刻番号	4247	5205	5475		
時刻番号	5475	4257	5136		
時刻番号	5137	3101	5476		
時刻番号	4249	5207	5477		
時刻番号	5477	4259	5137		
時刻番号	5138	3102	5478		
時刻番号	4251	5209	5479		
時刻番号	5479	4261	5138		
時刻番号	5139	3103	5480		
時刻番号	4253	5211	5481		
時刻番号	5481	4263	5139		
時刻番号	5140	3104	5482		
時刻番号	4255	5213	5483		
時刻番号	5483	4265	5140		
時刻番号	5141	3105	5484		
時刻番号	4257	5215	5485		
時刻番号	5485	4267			

パターンダイヤの時刻表は、特急、急行などの文字、時刻を表す数字、通過を表すレの字が規則的に並び、非常に美しい時刻表になっています。と言うのも、複雑な相互直通運転が行われているなかで、それぞれの列車の速達性を保ちながらパターンダイヤを組むのは簡単ではありません。例として首都圏の相互直通運転として最も有名な通称：5直（今度の相鉄・東急直通線開業でさらに複雑になりましたが）の平日日中パターンダイヤを見てみましょう。

東急東横線を軸とする5直は非常に複雑な運行形態をとっています。まず、この相互直通運転に関わっている鉄道会社は、東急電鉄、東武鉄道、西武鉄道、東京地下鉄（東京メトロ）、横浜高速鉄道（元々の5直）に新たに加わった相模鉄道の計6社、路線数は12路線に及びます。特に、東武線、西武線、副都心線、有楽町線がそれぞれ合流して分かれしていく小竹向原駅の時刻表はすごいことになっています。

列車番号	1130M	1137S	1125S	1122K	1147S	1208K	1122M	1179S	1119T	1294G	1209K	1229K	1133S	1251S	1103T	1207K	1239S	1204S	1255S	1229S	1207T	1252K	1220K	1206K	
番組	724	767	724	ST		724	724	767	ST	724	724	724	724	724	724	725	725	725	725	725	725	725	725	725	
始発	小手指	森林公園	石神井公園	ST		保谷	小手指	川越市		小手指	森林公園	石神井公園	保谷	小手指	川越市	川越市	保谷	小手指	川越市	川越市	保谷	小手指	川越市	川越市	保谷
1119	1110	1152	1154	1157		1155	1154	1157		1148	1140	1223	1222	1223	1223	1223	1224	1224	1224	1224	1224	1224	1224	1224	1224
和光市	1150	1156	1158	1203		1206	1211	1211	1211	1217	1220	1226	1228	1233	1233	1233	1238	1241	1241	1241	1241	1241	1241	1241	1241
下り	1154	レ	1201	1206		1209	1213	1213	1216	1222	1224	1226	1233	1236	1236	1236	1236	1245	1246	1245	1245	1245	1245	1245	1245
東京メトロ	1156	レ	1203	1209		1209	1213	1213	1216	1222	1224	1226	1233	1236	1236	1236	1236	1246	1249	1246	1246	1246	1246	1246	1246
上り	1158	レ	1206	1212		1212	1216	1219	1225	1229	1229	1229	1233	1236	1236	1236	1236	1248	1251	1251	1251	1251	1251	1251	1251
平和台	1159	レ	1208	1214		1218	1221	1221	1227	1231	1231	1231	1235	1235	1235	1235	1241	1244	1244	1244	1244	1244	1244	1244	1244
水川台	1201	レ	1208	1214		1218	1221	1221	1227	1231	1231	1231	1235	1235	1235	1235	1241	1247	1247	1247	1247	1247	1247	1247	1247
小竹向原	1155	レ	1204	1211		1211	1217	1217	1223	1225	1225	1225	1233	1233	1233	1233	1241	1247	1247	1247	1247	1247	1247	1247	1247
種別	↓	↓	↓	↓		↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
小竹向原	1201	1206	1206	1211	1212	1216	1217	1222	1223	1224	1225	1226	1231	1231	1231	1231	1241	1242	1246	1246	1246	1246	1246	1246	1246
到着日	1157	1207	1207	1210		1216	1216	1221	1220	1223	1229	1230	1233	1235	1235	1238	1240	1246	1246	1251	1251	1250	1253	1253	1259
種別	↓	↓	↓	↓		↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
小竹向原	1201	1206	1206	1211	1212	1216	1217	1222	1223	1224	1225	1226	1231	1231	1231	1231	1241	1242	1246	1246	1247	1252	1253	1253	1301

写真は2023年3月のダイヤ改正時の池袋方面の時刻表ですが、列車の本数は1時間間に副都心線直通が12本、有楽町線直通が10本の計22本となっています。驚異的な数字であるとともに、さらにすごいのが、小竹向原駅の30分単位のパターンダイヤはほとんどの列車の始発駅と終着駅の組み合わせが異なる、ということです。少し見てみましょう。（太字は副都心線直通列車）

- |                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| 01分 小手指発          | 新木場行                 |
| 06分 和光市発          | 新木場行                 |
| <b>06分 森林公園発</b>  | <b>元町・中華街行 Fライナー</b> |
| <b>11分 石神井公園発</b> | <b>元町・中華街行</b>       |
| 12分 和光市発          | 新木場行                 |
| <b>16分 和光市発</b>   | <b>元町・中華街行</b>       |
| 17分 保谷発           | 新木場行                 |
| <b>22分 小手指発</b>   | <b>元町・中華街行 Fライナー</b> |
| 23分 川越市発          | 新木場行                 |
| <b>24分 和光市発</b>   | <b>湘南台行</b>          |

(線路容量が足りないため、副都心線は、この先の池袋始発、元町・中華街行がこの間に1本存在し、副都心線内でも等間隔の運行が維持されている。小竹向原～池袋間は線路を別にして有楽町線と副都心線が並行して走行し、停車駅も同様であるため、小竹向原からは池袋乗り換えでこの列車に簡単に接続できる)

このように11本の列車が走って、始発駅と終着駅の組み合わせは10通りもあります。また、小竹向原駅はこのダイヤを実現するために、配線も非常に複雑です。時刻を見ると、発射時刻が重なる点がいくつもあります。これは、それぞれの路線の乗り継ぎを便利にするためです。そして、この過密ダイヤの中でも、有楽町線直通列車と副都心線直通列車がある程度等間隔に出発していることがわかります。始発駅と終着駅がこんなに違い、それぞれの鉄道会社の運転系統に制約を受けながらも（※特に西武線と東武線は地下鉄直通系統より池袋始発の本線系統がメインである）維持しているこの等間隔の美しさに、私は心を惹かれるのです。

## ②半世紀前の時刻表

JTBのMOOK 時刻表復刻版

時刻表復刻版は戦後何回か行われた大幅なダイヤ改正時の時刻表を復刻版として売り出したものです。よってそれ自体に実用性はありません。しかし、自分が生まれる前の時刻表を見ると、今では考えられないような時刻表が沢山あります。それを眺めて、その時代、鉄道が人々にとってどのような存在だったかを考えるのは楽しいものです。

時刻表復刻版の中でも、私が持っているのは、ヨン・サン・トオと呼ばれる昭和43年10月、東北本線全線複線電化が完成した時のものと、ゴオ・サン・トオと呼ばれる、昭和53年10月の特急全盛期の時刻表です。この2つのダイヤ改正に伴って発売された時刻表は、10年しか変わらないものの、列車本数や運行形態は全くと言っていいほど異なっています。その劇的な変化が、当時の日本の成長具合を示してくれています。

ヨン・サン・トオのダイヤ改正時、最大のトピックは東北本線の全線複線電化の完成でした。それまで、上野～青森間が最速10時間24分だったのが最速8時間30分に短縮（今では新幹線で3時間）。上野～青森間を走行していた特急はつかりをはじめ、上野～盛岡間の特急やまびこ、上野～仙台間の特急ひばり、上野～山形間の特急やまばとがそれぞれ大幅なスピードアップを実現しました。また、電化が完了したことにより、583系電車寝台特急がはくつる号、ゆうづる号として運行を開始。電車寝台列車は客車寝台よりも加速度や速度で優れているため、寝台特急でも大幅なスピードアップを実現しました。また、スピードアップに伴って運行本数も増加。昼行特急が2往復、夜行特急が3往復増発されました。この他にも、山陽線から九州方面への寝台特急が大幅に増発されるなど、1度のダイヤ改正で全国で定期特急列車が50本も増発されるなど、当時の経済成長がいかに凄まじかったかを感じることができます。

10月1日から誕生する新特急～

(東海道・山陽・九州線)

あさかぜ2号	東京	19:10	→	博多	11:40
あさかぜ1号	博多	14:50	→	東京	7:30
金 星	名古屋	22:42	→	博多	10:05
"	博多	18:50	→	名古屋	6:15
替 星	新大阪	19:28	→	宮崎	10:31
"	宮崎	16:45	→	新大阪	7:42
月光1号	新大阪	19:38	→	博多	5:36(季節)
月光2号	博多	23:55	→	新大阪	9:42( " )
明 星	新大阪	20:28	→	熊本	7:25
"	熊本	21:40	→	新大阪	8:50
あかつき2号	新大阪	21:28	→	西鹿児島	12:37
あかつき1号	西鹿児島	15:35	→	新大阪	6:42
にちりん	佐世保	18:35	→	西鹿児島	16:20
"	博多	7:35	→	西鹿児島	20:30
うしお3号	西鹿児島	11:45	→	博多	20:25
うしお1号	新大阪	17:35	→	宇野	20:25
"	宇野	8:40	→	新大阪	11:32

(東北・常磐・奥羽・磐越西線)

東北線全線の複線・電化にあわせて、昼行2往復、夜行3往復が増発となり、到着時分を2時間短縮して、8時間30分となる。(電車特急は、東北線方面では初の「月光」型寝台電車を使用する)

はつかり1号	上野	10:15	→	青森	18:47
ゆうづる2号	上野	23:00	→	青森	9:35
はつかり2号	青森	9:00	→	上野	17:32
ゆうづる1号	青森	19:25	→	上野	6:00
ひばり2号	上野	9:00	→	仙台	12:58
ひばり4号	"	15:00	→	"	18:58
ひばり5号	"	16:30	→	"	20:28
ひばり2号	仙台	9:30	→	上野	13:28
ひばり3号	"	12:20	→	"	16:18
ひばり5号	"	15:40	→	"	19:38

やまばと1号	上野	13:20	→	山形	17:55
やまばと2号	山形	12:35	→	上野	17:10
あいづ	上野	14:15	→	会津若松	17:50
"	会津若松	10:35	→	上野	14:10

(上越・信越線)

とき2号	上野	10:00	→	新潟	14:00
とき4号	"	15:05	→	"	19:05
とき2号	新潟	10:00	→	上野	14:05
とき4号	"	15:00	→	"	19:05
あさま3号	東京	16:40	→	直江津	21:05
あさま1号	直江津	7:30	→	東京	12:01

(中央線)

あずさ2号	新宿	13:00	→	松本	16:42
"	松本	12:35	→	新宿	16:17
しなの	名古屋	8:40	→	長野	12:51
"	長野	15:10	→	名古屋	19:24

(北陸線)

雷鳥1号	大阪	9:45	→	富山	14:00
雷鳥3号	富山	15:45	→	大阪	20:07
しらさぎ2号	名古屋	13:15	→	富山	17:11
しらさぎ1号	富山	5:55	→	名古屋	9:39

(日本海縦貫線)

日本海	大阪	19:30	→	青森	11:50
"	青森	16:30	→	大阪	9:29

(高麗線)

ひだ	名古屋	15:10	→	金沢	20:18
"	金沢	6:45	→	名古屋	11:57

(北海道線)

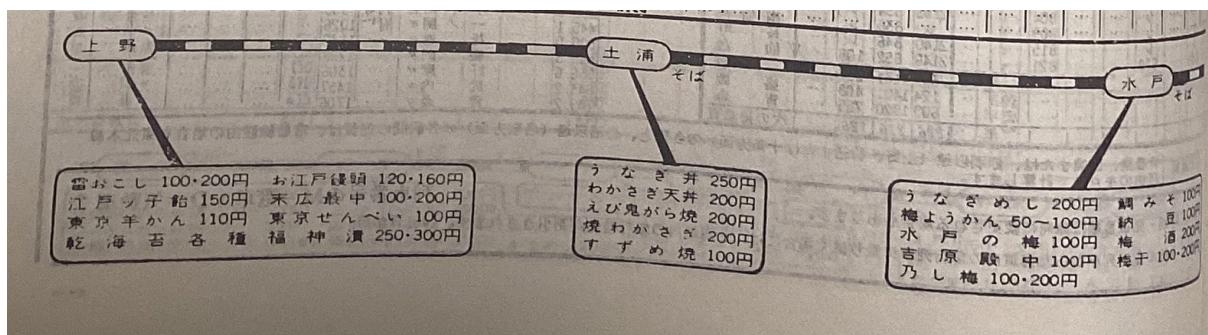
北斗2号	函館	16:25	→	札幌	20:43
北斗1号	札幌	7:30	→	函館	11:55

当時はまだ列車号数の下り奇数、上り偶数の統一がなされておらず、同じ号数の列車が上下両方で走っていました。

当時の時刻表を見ると、東京～仙台間が特急11往復と、当時の日本の人口が、既に1億人を越えていたことを考えると、特急の数だけでは少ないように感じます。しかし、当時は急行列車もたくさん走っていて、これも合わせると、上野～仙台間は優等列車が23往復と、かなりの数になります。

特急列車と急行列車の運賃価格の関係性は、今の航空業界におけるフルサービスキャリアと格安キャリアの関係性に近かったようです。列車性能で劣る急行列車は所要時間も特急に比べて長かったですが、安い価格で乗れるため、多くの庶民にとっては急行のほうが身近な存在でした。今では急行列車は臨時列車も含めて全廃されてしまいましたが、現在JRで走っている普通列車は加速性能に優れて当時よりも最高速度が向上しているため、所要時間では大差がありません。1968年当時、上野から土浦までは急行ときわで1時間8分でしたが、現在は普通列車で平均1時間15分程度。急行ときわが、途中で我孫子にしか停車していないのに対して、現在の普通列車は、途中14駅停車していますから、その性能の差は歴然です。現在の通勤電車は当時の急行列車よりも性能が向上しています。

他にも面白いのは、各駅で販売されているお弁当の値段が書いてあったりするところです。



土浦ではわかさぎ天丼、水戸では納豆や梅羊羹、吉原殿中が売られています。地元では今も馴染みのものが多いです。当時と今では円の価値が異なりますが、それでも安さに驚きます。

それでは最後に少し、ゴオ・サン・トオと呼ばれるダイヤ改正を見ていきましょう。ゴオ・サン・トオ改正がヨン・サン・トオ改正と最も大きく異なるのは特急列車の本数です。1968年、上野～仙台間の特急ひばりが5往復だったのに対して1978年は15往復、同区間を走行する特急の総数は28往復、急行列車も合わせると40往復でほぼ倍近くに増えています。常磐線でも、この頃から特急ひたち号が運行されるようになり、上野～平（現在のいわき）間を11往復しています。現在、特急ひたち号は、上野～いわき間で15往復運転されているので、ほぼそれに近い数です。この頃になると、時刻表の記載形態も現在に近づいてきます。一方で、ゴオ・サン・トオでは、特急料金や運賃の値上げが行われるなど、10年後の国鉄分割民営化に向けて国鉄の経営状況が悪化していることを物語る記載もあります。個人的に見ていて楽しいのは特急が多いゴオ・サン・トオ改正の方ほうですが、別に売られている1964年当時の時刻表を今持っているものと比較すると、ヨン・サン・トオ改正がいかに衝撃的だったかを感じることができます。現在では、鉄道は新幹線を除いて長距離輸送から短距離輸送に舵を切って、多くの長距離特急列車が失われてしまいましたが、高速道路も十分に整備されていない時代の時刻表は、その半分以上が特急列車や急行列車です。現在との差に最初は衝撃を受けると思いますので、時刻表を読まれている方は、ぜひ一冊買ってみてください。